

地中海 エーゲ海クルーズ17・2010 (4)

■ギリシャ・カタコロン入港【第5日目】 (平成22年) 2010.2月24日

□オリンピア遺跡を訪ねる□

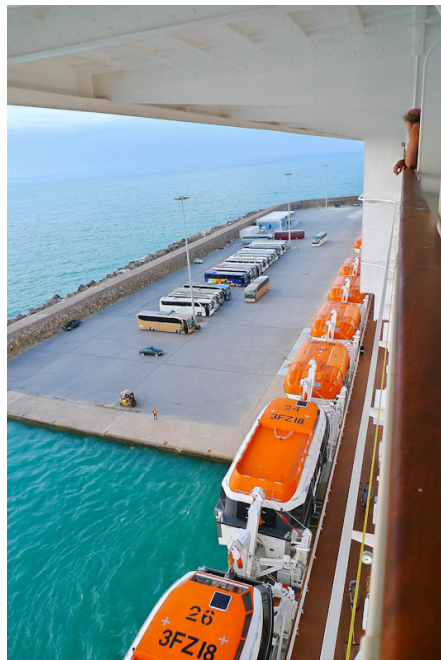
船は、クルーズ最初の寄港地、ギリシャ・カタコロン港に



□am 8:00に入港□

そして今日は、クルーズ最初の寄港地観光である。古代ギリシャオリンピックの発祥となった「**オリンピア遺跡**」と「**考古学博物館**」の見学が予定されている。

そのオリンピアに一番近い港がこの「カタコロン港」で、近年多くのクルーズ船が寄港するようになっていると聞いた。



ギリシャ・オリ

船内新聞によると、今日の寄港地**ンピア**の気温は、最高16 /最低が6 となっている。下船しての観光には、軽い防寒対策が必要かなと....そんな仕度をした。

□

何時ものように、14デッキの「**ボラボラカフェテリア**」でビュッフェスタイルの朝食□料理の種類とその量を、自分流に皿に盛っての食事は、ストレスがなくてなん

とも良い□

□am 8: 50に7デッキのザ・アフトラウンジに集合して下船する。そして、バスに乗り込み、およそ45分の移動となった。

□

4年に一度開催されるスポーツの祭典オリンピック。その発祥の地がオリンピアだ。現在でも、**オリンピックの聖火は、**ここにある古代オリンピア遺跡の「**ヘラ神殿□**で



採火される□



オリンピッ

クの名の派手なイメージとは裏腹に、オリンピアは美しい山間にある人口1,500人ほ

どの小さな田舎町なのである。



オリンピアの遺跡は、神殿が建てられていた「**聖域のエリア**」と古代オリンピック

大会に使用されていた「競技場や宿舎のエリア」に別れていると聞いた。



□□

□
それらを順に見学してゆく予定であったが、あいにく職員らのスト中に合い、エリアには入れず。仕方なく遺跡の囲いの外からの見学となった。

そして、歩いてすぐそばにある「**オリンピア博物館**」へ移動。



オリンピア

遺跡周辺からの出土した、オリムピックの歴史を物語る貴重な品々を展示している。代表的なものは、**ゼウス神殿を飾っていた「東西の破風」のレリーフ**（浮き彫り）である。「破風」は、神殿の屋根の下の三角部分を指す。



また「勝利

の女神ニケ像」は、オリンピアにふさわしい出土品であり、発見された当時のまま



の姿に戻して展示してあった。

□パリ・ルーブル美術館の至宝「サモトラケのニケ像」が超有名ではあるが、ここオリンピア博物館のニケ像も、それに負けず劣らない立派なものであると思った。

オリンピア博物館の見学を終えて、その直ぐ近くの土産品店に行く。



遺跡から出土した彫刻などを模した

土産品が並んでいる。

持ち帰りたいと思うものもあるが、なんせ重いし壊れやすい。

そうしたことから土産には「Tシャツ」にすることが多い。

オリンピアの観光を終えて、スプレンドィダ号が待つカタコロン港に戻った。

カタコロンはビルゴス地方の西に位置する海沿いの町である。町の中心からは、イ



オニア海が見渡せる□

昼食は、乗船して船内のレストランでも食べられるのではあったが、出航時刻のpm 5:00までには随分時間がある。

そこで、この港の海沿いのレストランで、パスタの昼食をとることにした。ここのロングパスタは、私たちの味覚に合っていて、とても美味しい！満足な昼食を終えて後、この港町のお店を覗く。



真っ青な空 紺碧の海 そして太陽と白い壁...あこがれていたエーゲ海クルーズ。だけど....日本から遠いこの地まで、よくやって来たものだと思っただけ。この素晴らしい景色に誘われて、何枚もシャッターを切ったものだ。



そうしながら、
ゆっくり歩いて船に戻ったのは...pm2:00頃だった。こうした、**およそ半日の寄港地
観光は、のんびりとしていて、さほど疲れも感じない**□



クルーズなら
ではの観光の良さが少し解った一日となつた□

キャビンでひと休みしたあと、船内探検に繰り出す。欧米の人たちがデッキを埋め
尽くして日光浴している□



私たちには真

似が出来ない光景である。カフェでエスプレッソとジェラードを楽しむ。ジェラードは、もちもちと粘りがあって美味しい。そして船内散策...海と空の色がなんとも綺麗。そうした光景をむさぼるように写真に納め、キャビンに戻って暫くお昼寝とした。

「**客室の違いとクルーズ代金**」について考えてみると、クルーズ代金は、客室のグレードによって変わる「せつくなので、豪華な客室で過ごしたいと言うのも一つの考え方だし、客室以外のサービスは、食事を含めてすべて同じなので、客室にこだわらなければ、予算に合わせて選ぶことも良しである」



「**船の揺れは?**」と気になる方も多いだろう。今回乗船した「スブレンディダ号」は、全長333^尺・全幅38^尺・135,000トンと安定感は抜群である。横揺れ防止装置「フィスタピライザー」もついていて「日常的な活動の中で、揺れを感じることはほとんどない。特別な時化に遭わないかぎり大丈夫である。大型クルーズ船とはいっても、特別な天候によっては状況もことなるであろうから、**心配な方は、酔い止めを事前に服用すれば、クルーズを楽しむことに問題はない**」と言って良いだろう。



「**クルーズの魅力とは?**」...いったい何であろうか。なんととっても楽しみながら移動が出来ることではないだろうか。気分や体調に合わせて、気ままに幾通りもの過ごし方がセレクトできる」

「船内の支払いは、チェックインした時に渡された**クルーズカード**を利用することになる。現金や個人のカードを持ち歩くことは必要がない。このクルーズカードは、客室の鍵となり、寄港地での乗下船時の身分証明として必要で、船内では、現金を使うことはない」

気が向けば免税店でのショッピングや各種のエンターテイメント、レストランや一面の大海原を見渡す甲板も、部屋を出てエレベーターに乗れば数分でアクセスが可能である。思い立ったら、**すぐに潮風が心地いい特等席へも行ける**。考えただけでもワクワクする話しではないだろうか?...そんな**サプライズ**に何度でも出会えるのがクルーズの魅力と言って良い」

「船内新聞のことだが、私たちには、**日本語の新聞が、毎晩、客室に届く**。翌日の船内の予定がぎっしり、レストランの営業時間からドレスコード・ショーの時間 各

種イベントの案内などなど....。新聞を眺めながら、翌日の予定を考えるのも楽しいものだ。...だが、私たちには、ゆっくり目を通す時間がなかった。



□船内のレストランは、一つだけではなく、ビュッフェタイプからフルコースが楽しめるものまである□その他には、地中海レストランやメキシコ料理店などの専門店もあった□

残念ながらこの船には「寿司バー」がなかった。日々、レストランを変えれば、メニューが変わるし、味もかわる。そうして、楽しむことができる。

□意外とお薦めなスポットは、一番高いデッキから海を始め寄港地の港や街を眺めることである□このスポットからの眺めはまた非日常的で、港から遠くの山肌まで建物が密集している様子など圧巻である□



欧米の人た

ちの気持ちを少しでも理解しようと、デッキにちょっと寝そべってみた。
私では、どうも周りの雰囲気になじめなくて、やっぱり様にならない。



午後5時、船はギリシャのピレウス港に向けて出航した。これから明日の朝7時30分まで450kmの航海が続く。

□次の寄港地では、アテネのシンボル・アクロポリスが楽しみである□

